

(様式1)

自己評価票

作成日 平成 21 年 10 月 2 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873900468		
法人名	大倉商事有限会社		
事業所名	グループホーム愛老	ユニット名	あゆみ
所在地	〒 300-0121 茨城県かすみがうら市宍倉3102		
自己評価作成日	平成21年 9月25日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	
-----------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内
訪問調査日	平成21年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然の多い環境の中に木造平屋建てで、庭も広く誰でも自由に出入りが出来るのびのびしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あゆみ)
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が地域の一員になれるように、地域との交流をして行くことを理念に掲げ職員にもつたえている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社長が生まれ育った環境での開設だった為その延長での近所付き合いがなされている。廃品回収・運動会の参加、逆に保育園児の訪問を受けることもある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の関わり方、支援の方法などを地域の方々に役立つ為の話し合い等は行っていない。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催回数が少なく、まだ報告会の様な会議になってしまいがちになっている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前はホームにお手紙を持ってきてくれていたが、担当が変わってしまい関わりが薄くなってしまった。判らないこと、相談事は電話でのやり取りが多くなっている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については理解している。時間帯により玄関の施錠を行うことはあるが、それ以外は開放してある。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修内容を職員に周知している。虐待については、こちらが思っても何気ない言葉遣いでも相手を傷つける事もあり、難しい問題である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あゆみ)
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	今現在まだ活用に至っていない。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については慎重に説明をした上で一読してもらい納得した上でサインをしてもらう。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望は面会や電話などで個別に聞いている。面会の頻度が少ない家族には聞き出せていないのが、現状である。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何か変更事項が生じた時は現場の声を聞く様にしている。逆に現場からの意見が寄せられる事も多い。可能な限り対応している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の状況は把握しているが、なかなか給料水準の面については、向上心を駆り立てる程の条件を出していただけないのが現状。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員を研修に参加させてあげられないのが現状にある。だが、資格を取得する事は推進している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	改めて同業者と交流する機会は今中々持てないが、研修、催し物等で話したりその後の個別な付き合いを持っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あゆみ)
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望があった時点で、まず本人、家族が何に困っていること、要望を聞きホームで対応出来る事を細かく説明している。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の関係作りは大切にしている。要望を聞いた上で、ホームで出来ること、出来ないことを明確にしている。曖昧にはしない。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望があればお試し利用も行っている。可能な限り利用者のニーズに応えるようにしている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に～する(過ごす、話す、歌う、買い物)事で笑い、楽しみが生まれる。逆に昔の事を教えて頂いたり、そういう時を大切にしている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時には状態報告すると共に、本人が家族の話をしたり、名前を呼んだりした事、本人が入居してから家族をどう思っているかを伝えている。その話の中から関係性や昔の話などを聞いている。定期的に報告している
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会の時に、家族に限らず面会は自由である事伝えている。家族とお墓参り、友人に会いに出掛けたりしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、孤立しない様かつトラブルにならない様に見守り、介入する様になっている。役割を持つ事も大切にしているが、強制しない程度に自然な声掛けをしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (あゆみ)
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用 (契約) が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	逝去による契約終了が多い為、お互い遠慮があるのか関係性の継続は難しい。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活習慣については (散歩・喫煙・晩酌等) 可能な限り支援している。困難な場合は納得できるように説明している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、生活歴、既往歴、家族構成等把握し日頃の生活に活用し対応している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人その人の生活パターンを把握して見守りしている。執拗に介入することなく、出来ることは危険の無い様に見守りする様にしている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	つい介護側の課題の考え方になりがちではあるが、入居者にとってのニーズを考え、家族の要望、現場の職員の考えを話し合い作成する様にしている。全員の家族の要望を聞けていないのが現状である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は詳しく記録する様に努めている。統一のケアが必要であったり問題が生じた時は相談し合う様にしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の性格、家族の希望、それぞれの関係性を考慮してその都度対応している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あゆみ)
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員、定期的なボランティアの受け入れ読書が好きな方は図書館も利用している。しかし、まだまだ活用不足を感じる。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に家族と話し合い決めている。今までのかかりつけ医を希望される方はそのまま継続している、その後は状態に応じて対応している。(特に認知症の周辺症状について)
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいない為、何か相談や気になることはホームの協力医院に相談している。必要に応じてホームに来てアドバイスされている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の時は、必ず立会いホームでの様子を伝え、入院中も定期的に面会し状態観察をしている。退院までの経過も把握し、ホームでの対応可能範囲、家族の意向、先生の判断等踏まえて最後まで支援している。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化、病気が見つかった等の問題が発生した時は、今後の可能性を予測し、家族と話し合いを持ち、家族、本人がどうしたいのかの意向を聞いた上で、ホームで出来ること、出来ないことを明確にして方向性を決めていく、医療機関の協力体制も欠かせない。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、怪我、病気等基本的な対応は身につけているが、まだ実践を踏んでいない職員もいる。その都度、可能性の説明はしている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練は行っている、近所に住んでいる職員も多い。地域ぐるみでの協力体制までは出来ていない。

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あゆみ)
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格、思いを把握し尊重している。時々、馴れ合いから大きな声で対応してしまうこともあり、お互い注意し合うようにしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に応じて分かりやすい声掛け、応えやすい声掛け(2択等)をするようにしている。また、自分の意見が思うように言えなくても日々の観察で体で発する合図で読み取れるようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の共同生活の中での決められた時間(食事、入浴など)築きあがっている。なかなか個々のペースを毎日希望に添って支援することは難しいのが現状にある。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、気をつけている。本人のこだわりは尊重している。そうすることで本人も落ち着き安心されるのが分かる。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には食べたいものをお出ししている。簡単な作業は一緒に行うが一緒に食事作りはしていない。配膳、後片付けはみんなでしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	平日の昼食は配食サービスをとっており、全体の栄養バランスは保たれている。現在のところ摂取困難者はいない。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事のあとは口腔ケアに努めている。昼食はうがいのみになってしまう方もいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あゆみ)
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に応じて、オムツ・パットを使い分けている。昼間はトイレに行ける様努め、布パンツにしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用をする前に、食事や水分で排便を促す様にしている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めてしまっているが、一人一人のペースで入浴している。個別の介助をし、全身観察をしながら、一対一で話せる良い機会にもなっている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は休息をとる時間で定着している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の効能を理解している。誤薬の無い様出す時の確認、渡す時の確認を忘れずに行っている。薬の変更があった場合は状態変化を観察している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの敷地内は自由としており、草取りする方、ベンチでくつろぐ方、散歩する方様々である。嗜好品に関しても、喫煙、晩酌を楽しまれている方もいる。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	突発的には行けないが予定を立てて対応している。遠方で行けない場合は家族にお願いすることもある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あゆみ)
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理能力のある方は所持しているが、基本的にホームでお預かりしている。買い物の際に可能であれば本人に支払いを任せることもある。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は訴え時対応している。手紙、ファックスを利用してる方もいる。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>明るさ、臭いなどは十分気をつけている。季節感のある飾り（壁、玄関、フロア）心がけている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファや和室で思い思いに過ごしている。外のベンチも憩いの場になっている様子。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれ馴染みの家具、物を持ち込んで貰っているが、個人差があり閑散としている居室もある。家族の関わり、金銭の問題もある。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の理解力に応じて、危険の無い程度に見守りケアしている。混乱してしまう事項に関しては、見て分かる様案内してあることもある。</p>

V アウトカム項目		あゆみ
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない